

3 いも類の防除基準

ば れ い し ょ 病 害 虫 防 除 農 薬 一 覧

農 薬 名	R A C コ ー ド	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 病 害 虫 名					
					疫 病	黒 あ ざ 病	ア ブ ラ ム シ 類	テ ン ト ウ ム シ ダ マ シ 類	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ
ベンレート水和剤	1	ベノミル	1	1		○				
ロブラール水和剤	2	イプロジオン	1（植付前）	4※1		○				
レーバスフロアブル	40	マンジプロパミド	2	2	○					
バリダシン液剤5	U18	バリダマイシン	1（植付前）	7※2	○					
			1（貯蔵前又は 植付前）							
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—	○					
コサイド3000	M1	水酸化第二銅	—	—	○					
ペンコゼブ水和剤 ジマンダイセン水和剤	M3	マンゼブ	10	10※3	○					
リドミルゴールドMZ	M3	マンゼブ	1	10※3	○					
	4	メタラキシルM		3						
ダコニール1000	M5	T P N	5	5	○					
ランネット微粒剤F	1A	メソミル	5	5			○		○	
スミチオン乳剤	1B	M E P	6	6			○	○		
ジェイエース水溶剤	1B	アセフェート	2	3※4			○	○※a	○	
オルトラン水和剤							○	○※b	○	
アドマイヤー水和剤	4A	イミダクロプリド	2	3※5			○			
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	4※6			○	○		
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	3	4※6			○	○		
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	2						○
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2						○

※1 種いも散布は1回以内 ※2 種いもへの処理は1回以内、植付後は6回以内

※3 無人航空機散布は3回以内 ※4 植付時の処理は1回以内、植付後は2回以内

※5 植付時の土壌混和は1回以内、植付後の処理は2回以内

※6 植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内

※a オオニジュウヤホシテントウ適用 ※b テントウムシダマシ幼虫適用

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
疫病	○植付前 検査合格した種いもを用いる。 ○生育期 ズボルドー 400倍 コサイド3000 1,000倍 ペンコゼブ水和剤 600倍 ジマンダイセン水和剤 1,000倍 リドミルゴールドMZ 1,000倍 ダコニール1000 1,000倍 レーバスフロアブル 2,000倍	--- --- 7-10 30-1 7-5 7-2	ペンコゼブ水和剤、ジマンダイセン水和剤、リドミルゴールドMZの総使用回数は合わせて10回以内。
そうか病	○植付前 1 検査合格した種いもを用いる。 2 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		土壌pH5.0～6.2を目安に酸度調整する。
粉状そうか病	○植付前 1 検査合格した種いもを用いる。 2 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		
黒あざ病	○植付前 1 検査合格した種いもを用いる。 2 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） 3 薬剤処理 ペンレート水和剤 種いも重の0.3% 種いも粉衣 4 薬剤散布 ロブラール水和剤 種いも散布 125倍 3L/種いも100kg バリダシン液剤5 種いも散布 10倍 200～300mL/種いも100kg	植付前-1 植付前-1 植付前-1	
ウイルス病	○植付前 1 検査合格した種いもを用いる。 2 アブラムシ類の防除を徹底する。		
アブラムシ類 ・ワタアブラムシ ・ジャガイトビゲ ナガアブラムシ ・モモアブラムシ	○発生初期 アドマイヤー水和剤 3,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 6,000倍	14-2 7-3	
テントウムシ ダマシ類 ・オオニジュウヤホシ ヤホシテントウ ・ニジュウヤホシ ヤホシテントウ	○発生初期 スミチオン乳剤 1,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 ジェイエース水溶剤 1,000倍 オルトラン水和剤 4,000倍 ダントツ水溶剤	3-6 7-3 30-2 7-3	1 ジェイエース水溶剤はオオニジュウヤホシテントウ適用。 2 オルトラン水和剤はテントウムシダマシ幼虫適用。
ヨトウムシ	○発生初期 ジェイエース水溶剤 1,000倍 オルトラン水和剤 ランネート微粒剤F 3kg/10a:散布	30-2 7-5	早期発見に努め、若齢期に重点防除する。
ハスモンヨトウ	○発生初期 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレオフロアブル 2,000倍	前-2 7-2	早期発見に努め、若齢期に重点防除する。
ハリガネムシ類 ・チャイロムナホリ コメツキ ・マルクビクシコメツキ ・クチブトコメツキ ・コガネコメツキ	○植付前 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		

さといも病害虫防除農薬一覧

農 薬 名	R A C コード	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 病 害 虫 名							
					軟腐病	黒斑病	アブラムシ類	ハダニ類	ハスモンヨトウ	スズメガ類	コガネムシ類 幼虫	ネキリムシ類
ベンレートT水和剤20	M3	チウラム	1	1	○							
	1	ベノミル										
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	1	1	○							
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—	○※a							
ドイツボルドーA	M1	塩基性塩化銅	—	—	○※b							
オンコル粒剤5	1A	ベンフラカルブ	1	1		○					○	
ラグビーMC粒剤	1B	カズサホス	1	1							○※c	
ダイアジノンS Lゾル	1B	ダイアジノン	1	1							○	
ネキリエースK	1B	イソキサチオン	4	4								○
アディオン乳剤	3A	ペルメトリン	5	5		○			○	○		
ガードベイトA	3A	ペルメトリン	5	5								○
アドマイヤー顆粒水和剤	4A	イミダクロプリド	2	3※1		○						
アドマイヤー1粒剤	4A	イミダクロプリド	2	3※1		○						
コロマイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2			○					
ゼンターリ顆粒水和剤	11A	B T （生菌）	—	—					○※d			
コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	2	2			○※e		○			
マイトコーネフロアブル	20D	ビフェナゼート	1	1			○					
トルネードエースD F	22A	インドキサカルブ	2	2					○			
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニリプロール	3	3					○			
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	2					○			
ヨーバルフロアブル	28	テトラニリプロール	2	2					○			
ウララD F	29	フロニカミド	2	2		○						
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2					○	○		

※1 植付時の土壌混和は1回以内、植付後の処理は2回以内

※a 野菜類（キャベツを除く）登録 ※b 野菜類登録 ※c コガネムシ類適用

※d いも類登録 ※e カンザワハダニ適用

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
乾腐病	○植付前 1 連作を避ける。 2 種いもは無病のものを用いる。 3 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		
軟腐病	○植付前 1 連作を避ける。 2 種いもは無病のものを用いる。 ○生育期 Z ボルドー 1,000倍 ドイツボルドーA 1,000倍	--- ---	展着剤を加用する。
黒斑病	○植付前 1 種いもは無病のものを用いる。 2 薬剤処理 ベンレートT水和剤20 20倍液1分間浸漬 または 種いも重量の0.4%粉衣 トップジンM水和剤 500倍 20～30分間種いも浸漬	植付前－1 植付前－1	
アブラムシ類 〔・ワタアブラムシ〕	○植付時 アドマイヤー1粒剤 4kg/10a 植溝土壌混和 ○発生初期 アドマイヤー顆粒水和剤 10,000倍 アディオオン乳剤 3,000倍 ウララDF 2,000倍	植付時－1 14－2 7－5 7－2	水和剤は展着剤を加用する。
ハダニ類 〔・カンザワハダニ〕	○発生初期 コテツフロアブル 2,000倍 マイトコーネフロアブル 1,000倍 コロマイト乳剤 1,000倍	7－2 3－1 前－2	1 水和剤は展着剤を加用する。 2 コテツフロアブルはカンザワハダニ適用。
ハスモンヨトウ	○発生初期 アディオオン乳剤 2,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍 ヨーバルフロアブル 5,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 1,000倍	7－5 7－2 前－2 前－3 前－2 発生初期(収穫前日)――	水和剤は展着剤を加用する。
スズメガ類 〔・セシジスズメ ・イボセシジスズメ〕	○発生初期 アディオオン乳剤 3,000倍 プレオフロアブル 2,000倍	7－5 7－2	
コガネムシ類 幼虫	○植付前 ラグビーMC粒剤 20kg/10a 全面処理土壌混和 ダイアジノンSLゾル 50倍 全面土壌混和 ○6月下旬～7月下旬 オンコル粒剤5 6kg/10a 株元土壌混和	植付前－1 植付前－1 生育期 (収穫60日前)－1	
ネキリムシ類	○生育期 ネキリエースK 3kg/10a 土壌表面株元処理 ガードベイトA 3kg/10a 株元散布	14－4 生育初期－5	
ネグサレ センチュウ	○植付前 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		

やまのいも病虫害防除農薬一覧

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病虫害名							
					褐色腐敗病	炭疽病	葉渋病	青かび病	アブラムシ類	ハダニ類	ハスモンヨトウ	ナガイモコガ
ベンレートT水和剤20	M3	チウラム	1 (植付前)	1	○			○				
	1	ベノミル		4※1								
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	5	5		○	○					
ストロビーフロアブル	11	クレソキシムメチル	3	3			○					
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	3	4※2		○	○					
オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール	3	3		○	○					
キノンドー水和剤40	M1	有機銅	5	5			○					
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—		○	○					
ペンコゼブ水和剤 ジマンダイセン水和剤	M3	マンゼブ	4	4		○	○					
ダコニール1000	M5	T P N	6	6		○	○					
ベルクートフロアブル	M7	イミノクタジナルベシル酸塩	1(植付前)	5※3				○				
			5			○	○					
アディオン乳剤	3A	ペルメトリン	5	5					○			
トレボン乳剤	3A	エトフェンプロックス	3	3					○		○	
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	3					○			○
コロマイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2						○		
ゼンターリ顆粒水和剤	11A	B T (生菌)	—	—							○ ※a	
マイトコーネフロアブル	20D	ビフェナゼート	1	1						○		
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	2							○	○
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニリプロール	3	3							○	○

※1 植付前までの処理は1回以内、植付後は3回以内

※2 粒剤は1回以内、水和剤は3回以内

※3 種いもへの処理は1回以内、無人航空機散布は3回以内

※a いも類登録

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
褐色腐敗病	○植付前 1 種いもは無病のものをを用いる。 2 連作は避ける。 3 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） 4 薬剤処理 ベンレートT水和剤20 200倍 10分間種いも浸漬	植付前－1	種いも浸漬処理は、種いもの切断面が乾いてから行う。
炭疽病	○生育期 Zボルドー 500倍 ペンコゼブ水和剤 600倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 ダコニール1000 1,000倍 ベルコートフロアブル 1,000倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 オンリーワンフロアブル 1,000倍	―― 21－4 30－6 7－5 前－3 7－3	アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用は避ける。
葉渋病	○生育期 Zボルドー 500倍 キノンドー水和剤40 600倍 ペンコゼブ水和剤 600倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 ダコニール1000 1,000倍 ベルコートフロアブル 1,000倍 トップジンM水和剤 800倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 ストロビーフロアブル 3,000倍	―― 14－5 21－4 30－6 7－5 7－5 前－3 7－3	アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルは浸透性展着剤との混用は避ける。
えそモザイク病	○植付前 前年の生育期に無病株を選別し、種いもとする。		
青かび病	○植付前 1 種いもは無病のものをを用いる。 2 薬剤処理 ベンレートT水和剤20 種いも重量の0.3%粉衣 200倍 10分間種いも浸漬 ベルコートフロアブル 200倍 1～10分間種いも浸漬	植付前－1 植付前－1	
アブラムシ類 (モモアブラムシ ・ワタアブラムシ ・ジャガイモアブラムシ アブラムシ)	○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 トレボン乳剤 1,000倍 アディオン乳剤 3,000倍	7－3 14－3 7－5	
ハダニ類 ・カンザワハダニ	○発生初期 コロマイト乳剤 1,000倍 マイトコーネフロアブル 1,000倍	7－2 3－1	
ハスモンヨトウ	○発生初期 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 1,000倍	前－2 前－3 発生初期(収穫前日)――	
ナガイモコガ	○発生初期 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍	前－2 前－3	
センチュウ類	○植付前 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		

かんしょ(さつまいも)病害虫防除農薬一覧

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病害虫名									
					黒斑病	つる割病	基腐病	軟腐病	斑点病	ハスモンヨトウ	ナカジロシタバ	イモコガ	コガネムシ類	ハリガネムシ類
ベンレートT水和剤20	M3	チウラム	1 (植付前)	1	○	○	○							
	1	ベノミル		4※1										
ベンレート水和剤	1	ベノミル	1	4※1	○	○	○		○					
アミスター20フロアブル	11	塩基性硫酸銅	3	3			○							
トリフミン水和剤	3	トリフルミゾール	1(植付前)	3※2			○							
			2											
ジーファイン水和剤	NC	炭酸水素ナトリウム	—	—			○	○※a						
	M1	無水硫酸銅		—										
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—			○	○※b	○					
ラグビーMC粒剤	1B	カズサホス	1	1									○	○
スミチオン乳剤	1B	MEP	5	5								○		
ダイアジノン粒剤5	1B	ダイアジノン	3	3※3									○※c	
アディオオン乳剤	3A	ベルメトリン	5	5								○		
アクタラ粒剤5	4A	チアメトキサム	1	1									○※c	
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	3	3						○				
ゼンターリ顆粒水和剤	11A	BT(生菌)	—	—						○※d				
マッチ乳剤	15	ルフェヌロン	2	2						○	○			
カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン	2	2						○	○			
トルネードエースDF	22A	インドキサカルブ	2	2						○	○			
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	2						○	○			
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2						○	○			
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2						○	○			

※1 植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内 ※2 植付前の処理は1回以内、植付後は2回以内

※3 マイクロカプセル剤の植付前の処理は1回以内、マイクロカプセル剤の散布は2回以内、粒剤の散布は2回以内

※a 野菜類(なすを除く)登録 ※b 野菜類(キャベツを除く)登録 ※c コガネムシ類幼虫適用

※d いも類登録

かんしょ（さつまいも）

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
黒斑病	○育苗前 種いもは無病のものを用いる。 ○植付前 1 苗を採るときはハサミ等で切る。 2 薬剤処理 ベンレートT水和剤20 200倍 30分間苗基部浸漬	植付前－1	1 ベンレート水和剤と ベンレートT水和剤20 の使用はどちらか 1回。 2 アミスター20フロア ブルは浸透性展着剤と の混用は避ける。
つる割病	○育苗前 種いもは無病のものを用いる。 ○植付前 1 土壌消毒（土壌消毒の頁参照） 2 薬剤処理 ベンレート水和剤 1,000倍 20～30分間苗浸漬	植付前－1	
基腐病	○育苗前 種いもは無病のものを用いる。 ○植付前 ベンレート水和剤 1,000倍 30分間苗浸漬 ベンレートT水和剤20 200倍 30分間苗浸漬	植付前－1 植付前－1	
	○生育期 Zボルドー 500倍 ジーファイン水和剤 1,000倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 トリフミン水和剤 3,000倍	―― 前―― 14－3 前－2	
軟腐病	○育苗前 種いもは無病で傷のないものを用いる。 ○生育期 Zボルドー 1,000倍	――	
紫紋羽病	○植付前 1 連作を避ける。 2 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		
斑点病	○生育期 Zボルドー 500倍	――	
ハスモンヨトウ	○発生初期 マッチ乳剤 3,000倍 アフーム乳剤 2,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 カスケード乳剤 4,000倍 フェニックス顆粒水和剤 6,000倍 プレオフロアブル 2,000倍 ゼンターリ顆粒水和剤 1,000倍	14－2 7－3 7－2 7－2 前－2 7－2 発生初期（収穫前日）――	老齢幼虫には薬剤の効果 が劣るので、若齢幼虫 の防除を徹底する。
ナカジロシタバ	○発生初期 マッチ乳剤 3,000倍 グレーシア乳剤 3,000倍	14－2 7－2	
イモコガ （イモバガ）	○発生初期 スミチオン乳剤 1,000倍 アディオオン乳剤 3,000倍	7－5 7－5	
コガネムシ類 （ヒメコガネ ・アカヒコガネ ・ドウガネバエ）	○植付前、植付時、発生初期（成虫発生期） ラグビーMC粒剤 20kg/10a 全面処理土壌混和 アクタラ粒剤5 6kg/10a 全面土壌混和または作条混和 ダイアジノン粒剤5 4kg/10a 作付前：全面土壌混和又は作条土壌混和 作物生育中：作条処理して軽く覆土	植付前－1 植付前－1 収穫30日前－3	1 7月上旬～8月中旬に 成虫の発生が多い。 2 ダイアジノン粒剤5、 アクタラ粒剤5はコガ ネムシ類幼虫適用。
ハリガネムシ類	○植付前 ラグビーMC粒剤 20kg/10a 全面処理土壌混和	植付前－1	
ネコブ センチュウ	○植付前 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）		

こんにゃく病虫害防除農薬一覧

農薬名	RACコード	有効成分名	本剤の使用回数	当該成分を含む農薬の総使用回数	適用病虫害名					
					腐敗病	葉枯病	乾腐病	白絹病	根腐病	アブラムシ類
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	3	3					○	
スターナ水和剤	31	オキシリニック酸	1(植付前)	6※1	○					
			5		○					
トップジンM粉剤DL	1	チオファネートメチル	1	1			○			
ベンレート水和剤	1	ベノミル	1	1			○			
アグレプト水和剤	25	ストレプトマイシン硫酸塩	6	6※2	○					
リゾレックス水和剤	14	トルクロホスメチル	3	3				○		
トリフミン乳剤	3	トリフルミゾール	1	1			○			
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—	○	○				
I Cボルドー66D	M1	塩基性硫酸銅	—	—	○	○				
ムッシュボルドーDF	M1	塩基性硫酸銅	—	—	○					
キノンドー水和剤40	M1	有機銅	8	8	○	○				
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	8F	ダゾメット	1	1			○	○	○	
クロールピクリン	—	クロールピクリン	1	1			○	○	○	
スミチオン乳剤	1B	MEP	3	3						○
アドマイヤー1粒剤	4A	イミダクロプリド	1(培土時)	3※3						○
			2(生育期)							

※1 種いもへの吹き付けは1回以内、植付後は5回以内

※2 種いもへの処理は1回以内

※3 培土時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
腐敗病	○植付前 1 無病の種いもを選別する。 2 種いも消毒 スターナ水和剤 100倍 種いもに150mL/㎡吹付け ○7月～9月 1 敷わらを行う。 2 発病株は早期に抜き取る。 3 薬剤散布 ICボルドー66D 40倍 Zボルドー 800倍 ムッシュボルドーDF 500倍 キノンドー水和剤40 600倍 アグレプト水和剤 2,000倍 スターナ水和剤 1,000倍	植付前－1 ―― ―― ―― 30－8 30－6 14－5	1 開葉時に曇雨天が続いた場合のボルドー液の散布は、薬害をおこしやすい。 2 アグレプト水和剤は耐性菌が出現しやすいので連用を避ける。 3 高温多湿時に発病しやすいので散布間隔を短くする。
葉枯病	○7月～9月 ICボルドー66D 80倍 Zボルドー 800倍 キノンドー水和剤40 600倍	―― ―― 30－8	種いもは無傷、無病のものを使用する。
乾腐病	○植付前 土壤消毒（土壤消毒の頁参照） クロールピクリン ほ場:2mL/穴 床土・堆肥:3mL/穴 ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤 } 20kg/10a ○植付時 1 連作を避ける。 2 無病の種いもを選別する。 3 種いも消毒 (1)種いも粉衣 トップジンM粉剤DL 種いも重量の2～3% (2)薬剤散布 ベンレート水和剤 100倍 種いもの芽基部散布 トリフミン乳剤 30倍 種いもの芽基部散布 150mL/種いも1㎡	――1 植付21日前－1 植付前－1 植付前－1 植付前－1	1 種いもは傷つけないようにする。 2 種いもへの薬剤噴霧は芽を上に向けて並べ芽の基部にかかるように噴霧する。
白絹病	○植付前 1 発病ほ場は、連作を避け、イネ科作物との輪作を行う。 2 土壤消毒（土壤消毒の頁参照） クロールピクリン ほ場:2mL/穴 床土・堆肥:3mL/穴 ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤 } 20kg/10a ○植付時～生育期 1 発病株は早期に抜き取る。 2 薬剤処理 リゾレックス水和剤 1,000倍 3L/㎡株元灌注	――1 植付21日前－1 30－3	
根腐病	○植付前 1 連作を避ける。 2 ほ場の排水を図る。 3 土壤消毒（土壤消毒の頁参照） クロールピクリン ほ場:2mL/穴 床土・堆肥:3mL/穴 ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤 } 20kg/10a ○植付時 ランマンフロアブル 1,000倍 3L/㎡土壤灌注	――1 植付21日前－1 14－3	
アブラムシ類 〔ワタアブラムシ〕	○生育期 スミチオン乳剤 1,000倍 アドマイヤー1粒剤 3kg/10a:株元土壤混和 6kg/10a:茎葉散布	14－3 培土時(基根伸長期)－1 生育期(収穫21日前)－2	